

⚠ 使用上の注意

- 必ず換気を行い、新鮮な空気の確保を徹底してください。
- 囲炉裏テーブルから離れる際や就寝前は、火が完全に消えていることを確認してください。**
- 囲炉裏テーブルでは薪は使用しないでください。**
- 燃焼中の炭への着火剤の追加はしないでください。**
- 「炭が小さくなったから」「火力が弱いから」と換気扇を止めるのは非常に危険ですのでご注意ください。
- 使用中に「軽い頭痛」「めまい」「吐き気」を感じたら、それは一酸化炭素中毒の初期症状の可能性が高く非常に危険な状態です。即座に部屋の換気を行ってください。
- 冬場に冷え切った、あるいは湿気った備長炭をいきなり強火の中に入れると、内部の空気が膨張して爆発（爆跳）し、鋭利な炭によって怪我を負う可能性がありますので充分ご注意ください。
- アルコール類（酒類を含みます）や可燃物を火のそばで扱わないでください。引火によって火柱が上がり、周囲に燃え移る危険があります。
- 囲炉裏テーブルは家の壁や家具などから離してご使用ください。壁などの内部が熱を持ち、内側から発火する恐れがございます。壁・家具などからはある程度距離を取ってご使用ください。**
- 炭を灰に埋めて消火（埋火）した場合でも、表面は冷たく見えても炭の内部では24時間以上熱が保持されていることがありますので火消し壺などで完全に鎮火させてください。**素手で炭や灰を触ったりゴミと共に捨てたりすると大変危険です。
- 完全に冷え切っていない灰を掃除機で吸うと、フィルターが熱で溶けたり、掃除機内部で火災が発生したりします。また、微細な灰（PM2.5レベル）は掃除機の排気から漏れ出し、部屋中の精密機器（パソコンなど）を故障させる原因にもなりますのでご注意ください。
- 現代の住宅に義務付けられている24時間換気システムは、**囲炉裏の燃焼排ガスを排出する能力はありません。**システムがあるから大丈夫と窓を閉め切るのは非常に危険ですのでおやめください。警報機などによって常に監視することをお勧めします。
- 脂が強い食材を焼くと、大量の油煙が発生し部屋中に臭いが充満しカーテンや壁紙、カーペットなどに匂いが染みつくと恐れがあります。囲炉裏テーブルでの焼き物などの調理は推奨しておりません。
- 囲炉裏の縁など近くに精密機械（スマートフォンなど）を置いておくと、輻射熱で内部のバッテリーが異常高温になり、膨張・発火する恐れがありますのでご注意ください。**
- 小鳥・犬・猫等小動物は人間よりもはるかに呼吸器が敏感です。ペットがいる部屋での使用はご注意ください。
- 屋外のBBQ用として売られている「着火が早い炭」には、揮発性の高い化学物質が染み込ませてあることが多く、室内で使うと激しい煙と異臭、有毒ガスが発生する恐れがあります。**必ず「屋内用（木炭・備長炭）」と明記されたものを使ってください。**
- 「**囲炉裏専用の火消し壺**」「**耐火マット**」「**一酸化炭素警報器**」を揃えることを推奨します。
- 台所のレンジフードなど、非常に強力な換気扇を囲炉裏と同時に使用すると、室内の気圧が下がる「**負圧**」状態になり、**囲炉裏の煙や一酸化炭素が外部ではなく、室内に逆流する危険がありますのでご注意ください。**
- 灰の量が少なすぎたり、炭の量が多すぎたり、炭が鉄火鉢の側面に近すぎたり、耐熱板のない箇所**で炭を使用したりすると、熱がテーブルの底や床材に伝わり続け、蓄積された熱で木材が炭化したり発火するおそれがあります。危険ですので絶対にやめてください。****
- 囲炉裏テーブルは囲炉裏を簡易的に楽しむためのものです。埋火などで火種の翌日への持ち越しは行わず、毎日消火してください。消火は火消し壺をご利用いただくなど確実な方法にて慎重に行うようお願い致します。**
- ポリエステルやフリースなどの化学繊維の衣類は、火の粉がつくと溶けて肌に張り付き、重度の火傷を負う原因になります。燃えにくい素材の服を着用することを心がけてください。
- 「アルコール燃料」や「ガソリン」を着火に使わないでください。**
- 換気のためにサーキュレーターを回す際、風が直接**囲炉裏に当たると、灰が舞い上がるだけでなく、火の粉が数メートル先まで飛んでカーテンなどに引火する恐れがあり危険ですのでご注意ください。**
- 囲炉裏テーブルを使用する際は、気密性の高い場所（**テント内や閉め切った部屋**）では絶対に使用しないでください。**
- 使用中は**火鉢（金属）部分周辺が高温になります。素手で触らないでください。**
- お子様やペットを囲炉裏テーブルの周りで遊ばせないでください。**
- 燃えやすいもの（衣類、クッション、新聞紙など）を周囲に置かないでください。**
- 火気使用中は、本体を移動させないでください。
- 使用後は、火が完全に消えていることを確認し、安全な状態になってから片付けてください。
- 組み立て後、平らな場所でぐらつきがないか確認してください。不安定な場所では使用しないでください。
- テーブルの上に乗ったり座ったりしないでください。

- 囲炉裏テーブルの開口部のサイズに合った、五徳を使用してください。
- 組み立て・撤収時、指や手を挟まないよう十分注意してください。
- 鋭利な部分があるため、洗浄時や手入れの際は手袋（ゴム手袋など）を着用してください。
- 濡れた場合は直ちに拭き取り、十分に乾燥させてから湿気の少ない場所で保管してください。
- 灰の中に水分が入ると、熱で水蒸気が発生し、灰が舞い上がったり炭が弾けたりして危険ですのでご注意ください。
- 鍋を吊るす自在鉤などを使用する場合はしっかり固定されているか、重さに耐えられるかを確認してください。
- 使用中の五徳や鉄瓶、周囲の灰は非常に高温になります。**特に小さなお子様やペットが近づかないよう注意してください。**
- 対角線上にある2ヶ所の窓を開けるか、換気扇と窓を併用し、常に「空気の流れ」を確保してください。
- 住宅の標準換気機能だけでは燃焼排ガスを排出できません。必ず意図的な窓開けを行ってください。
- 目視できない一酸化炭素（CO）を検知するため、警報器が正常に作動しているか確認してください。
- 囲炉裏テーブルで炭火の使用、囲炉裏テーブルの上や周辺でカセットコンロを使用しないでください。
- 燃えている炭に水をかけると、高温蒸気が爆発的に噴出し、大火傷を負うほか、灰が飛散して周囲を焼損させる危険がありますのでご注意ください。
- 消毒用アルコール、酒類、カセットボンベ、ライター、スプレー缶などをテーブルの縁や火のそばに置かないでください。
- 食材などの調理は推奨していませんが灰に落ちた脂や食材は、腐敗や次回の異常燃焼・虫の発生・悪臭の原因になります。汚れた灰は完全に冷めてからスコップで取り除いてください。
- 消火後数時間は、本体・五徳・鉄瓶が極めて高温なので十分に注意をしてください。
- 炭火が消えて見えても、炭はもちろん灰の内部には24時間以上熱が残ります。「完全に冷めた」ことを確認するまで、絶対にゴミ袋や可燃性の容器等に入れないでください。
- 地震の際、囲炉裏テーブルの灰や炭が周囲に飛び散る可能性が高いため、すぐに被せられる「金属製の蓋」や「防災布」を近くに備え、揺れが収まったら速やかに消火をお願い致します。
- 囲炉裏テーブルのテーブル部に手をついて立ち上がる、囲炉裏テーブルによしかかるなど転倒リスクとなる行為はおやめください。
- 地震による移動・転倒時に、周囲のカーテン、ソファ、ティッシュ箱などに炭や炎が燃え移らないよう、テーブル周辺（目安として半径1m以内）には燃えやすいものを絶対に置かないでください。
- 囲炉裏テーブルは重量があるため、倒れると大怪我に繋がります。市販の耐震マットなどを利用し、床にしっかり固定してください。
- 深夜に地震が発生した場合、対応が遅れて大火災になるリスクがあります。就寝中や外出時には、必ず火が完全に消えていることを確認してください。
- 地震でテーブルが倒れても、逃げ道をふさがらないような配置にしてください。特に逃げ遅れる危険がある子どもや高齢者の近くには、倒れやすいものを置かないでください。
- 囲炉裏テーブルを使用するにあたって、消防法に基づく消火器を設置するようお願い致します。
- 使用後の炭は完全に消火したことを確認し、囲炉裏テーブル内に放置しないでください。
- **子供だけで使わせたり、幼児の手の届くところでは使わないでください。**
- **炉の中心に適切な量の炭火を置き、炉縁が焦げない程度の火力で使用してください。**
- 備え付けの蓋をする場合は、残り火が完全に無くなり、冷たくなったことを確認してください。
- 改造等は事故につながおそれがあるので、絶対しないでください。

⚠ 着火作業時の注意

- 爆ぜるのを抑えるため、炭の粉はよく落としてから着火してください。
- 爆発する恐れがありますので、カセットコンロは絶対に使用しないでください。
- 炭がパチパチとはねる場合がありますので、上から覗き込まないでください。
- 一酸化炭素中毒防止と炭をよく燃やすために、作業中は換気を十分行ってください。
- **火鉢部分に灰が入ってない状態で火のついた炭を入れないでください。** 木材部分が燃えたり焦げたりし、火災になる危険があります。

※本注意事項に従わない使用による事故について、当方は一切の責任を負いかねます。特に火災と火傷・換気には十分注意し、すべて自己責任で安全に使用してください。